

ハリス理化学館同志社ギャラリー第7回企画展公開講演会

「縄文貝塚研究と酒詰仲男」

日 程

- 13:30-13:40 挨拶
- 13:40-14:10 「酒詰仲男先生と初期同志社考古学の群像」
白石太一郎氏（大阪府立近つ飛鳥博物館館長）
- 14:10-14:40 「縄文生態研究と酒詰仲男」
羽生淳子氏（総合地球環境学研究所教授）
- 14:40-15:10 「〈同志社文学〉から〈貝塚〉へ」
酒詰治男氏（甲南女子大学名誉教授）
- 休憩
- 15:30-16:30 討論（司会・若林邦彦）

日時：2015年10月11日（日）13:30～16:30

場所：同志社大学今出川校地明德館1番教室

同志社ギャラリー企画展講演会「縄文
貝塚研究と酒詰仲男」 2015.10.11

酒詰仲男先生と初期同志社考古学の群像

白石 太一郎

《要旨》

今回の同志社ギャラリーの企画展は「縄文貝塚研究と酒詰仲男」であり、それにちなむ今回の講演会のテーマも「縄文貝塚研究と酒詰仲男」である。当然、酒詰仲男先生の縄文貝塚研究について語らなければならない。しかし、残念ながら私はまったく不肖の弟子で、学生時代以来、古墳～飛鳥時代を専攻し、先生の縄文貝塚研究について語る資格はまったくない。

それでも国立歴史民俗博物館在職中の、今から十数年前頃から、関東の縄文研究者たちの間で、酒詰先生の貝塚研究の再評価が進んでいることを知り大変嬉しく思っていた。さらに開発の進んだ 21 世紀の現在にあっては、先生がまさに足で「アルケオロジー」を実践された『日本貝塚地名表』などの研究成果が、縄文時代研究ばかりでなく、日本の環境史研究の資料としてもきわめて貴重なものであることはよくわかる。

先生の縄文生態研究の評価については、すべて羽生淳子先生にお任せするほかない。ただ酒詰仲男先生についてはその貝塚研究と並んで、多くのすぐれた考古学者を育てられたことが先生の大きな功績と評価されている。ここでは、同志社時代の酒詰先生の思い出と先生の考古学についてお話しするとともに、先生が育てられた同志社の初期の考古学研究者たちとその業績を紹介することでお許しいただきたい。それもここで紹介するのは、私が同志社大学に入学した当時大学院の博士課程や修士課程に在籍され、考古学の手ほどきをして下さった 5 名ほどの先輩に限らざるをえない。酒詰先生が育てられた初期の同志社考古学の群像には、さらに多くのすぐれた考古学者・考古学研究者が存在することを指摘しておく。

なお酒詰先生は、自らの学問を「先史学」と呼び、「考古学」とはよばれなかった。そのお考えについては、さまざまな評価があろうが、縄文時代を中心とする貝塚研究を科学（自然科学）的な方法で進めたいとお考えがあったことはいままでもない。特に考古学の専攻生が、考古学研究に文献史料を安易に用いることをひどく嫌われた。古墳時代から飛鳥・奈良時代を中心に勉強していた私などは、この点大いに悩まされ、また考えさせられた。この点もまた、酒詰仲男先生の貝塚研究の再評価と無関係ではなかろう。酒詰仲男先生没後 50 年を契機に、考古学と文献史学など他の人文系学問との協業のあり方についても、広くお考えいただければ幸いである。

酒詰仲男先生と初期同志社考古学の群像

はじめに

1. 酒詰仲男先生と同志社考古学

1927年同志社大学英文科卒業、大山史前学研究所研究員、東大理学部人類学教室助手を経て、1953年同志社大学文学部講師、54年同志社大学教授。1965年急逝、享年63歳。代表的な著作に『日本貝塚地名表』（1959）、『日本縄文石器時代食料総説』（1961）などがある。

- ① 晩年の酒詰仲男先生の想出（思いつくままに）
・高桐院のこと「薫風院考古学究居士」
- ② 考古学 Archaeology と先史学 Prehistory
- ③ 日本海沿岸をフィールドに
- ④ 博物館学芸員課程の設置のことなど

2. 初期同志社考古学の群像

- ① 堅田 直（1927～2006年、帝塚山大学教授）
『情報考古学—パソコンが描く古代の姿』ジャストシステム、1996年
- ② 森 浩一（1928～2013年、同志社大学教授）
「日本の古代文化—古墳文化の成立と発展の諸問題」『古代史講座』学生社、1962年
- ③ 安井良三（1929～1997年、八尾市立歴史民俗資料館館長）
「天武天皇の葬禮考—『日本書紀』記載の仏教関係記事—」『日本書紀研究』第1冊、塙書房、1964年
「物部氏と仏教」『日本書紀研究』第3冊、塙書房、1968年
- ④ 石部正志（1931年～、宇都宮大学教授）
『古墳は語る—最新の成果で学び、楽しむ初期国家の時代—』かもがわ出版、2012年
- ⑤ 岡田茂弘（1934年～、宮城県立東北歴史博物館館長）
『多賀城』中央公論美術出版、1977年
「新しい古代東北史像を求めて」（青木和夫氏と共著）青木・岡田編『古代を考える・多賀城と古代東北』吉川弘文館、2006年

縄文生態研究と酒詰仲男

総合地球環境学研究所・教授
カリフォルニア大学バークレー校・教授
羽生 淳子

1.はじめに

2. 酒詰仲男の業績

1) 貝塚の発掘と縄文生態研究の基礎

a) 貝塚遺跡と住居址の調査

西の谷、下田町東、境田、表谷東、四枚畑、諸磯、水子 etc.

b) 神奈川県下貝塚調査概報—「貝塚遺跡による古代聚落の研究」の一部—(1938)

c) 低湿地遺跡の発掘

d) 「考古少年」たちとの共同研究

2) 縄文集落研究の系譜

a) 神奈川県下貝塚間交通問題試論 (1940)

b) 日本貝塚地名表 (1959)

c) 古代日本における「定住」をめぐる諸問題 (1961)

d) 和島誠一と酒詰仲男

3) 動植物遺体（自然遺物）研究と食・生業

a) 所謂棒つきカキについて (1940)

b) 日本原始農業試論 (1956)

c) 日本縄文石器時代食料総説 (1961)

余論 A. 食料獲得について

B. 食料の貯蔵、保管について

C. 料理について

D. 編年より観たる食品について

d) 環境管理と縄文農耕論

3. 酒詰仲男と近年の縄文生態研究

1) 動・植物考古学の発展

- 水洗選別とフローテーション
- 動・植物遺体の定量分析
- 花粉・植物珪酸体・珪藻分析等のマイクロ遺体による環境復元
- 季節性分析
- 鳥浜・三内丸山とクリの管理栽培論

2) 縄文人に主食はあったか

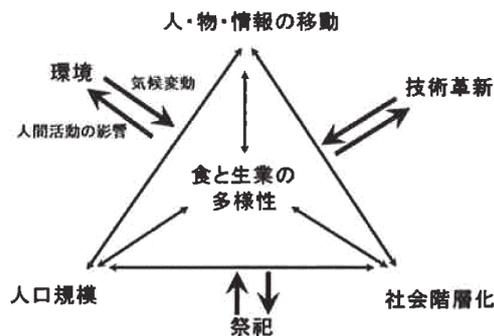
3) 環境考古学の台頭 (2000 年代～)

- 気候変動への関心
- マクロ・マイクロ動植物遺体分析の進展
- 持続可能性 Sustainability
- 回復力 Resilience と脆弱性 Vulnerability
- 生物多様性 Biodiversity
- 食の多様性とリスク Food Diversity and Risk
- 文化的景観 Landscape

4) 歴史生態学—歴史学と生物学の接点

- 人間行動が環境に与える影響を重視 (環境管理も含めて)
- 過去の経済・社会システムが、世界各地に固有の歴史の軌跡を作り出した過程の解明
- 文化の短期～長期的変化のプロセス解明

5) 文化の長期変化の原因・条件・結果の解明



4. おわりに

「縄文貝塚研究と酒詰仲男」展講演

— 「〈同志社文学〉から〈貝塚〉へ」 —

酒詰治男

- 1902 (明治 35) 年 誕生 幼少年期
- 24 (大正 13) 年 同志社大学英文科へ入学
- 27 (昭和 2) 年 大学卒業 英語教員として開成中学に就職
- 33 (昭和 8) 年 検挙 失職 浪人 考古学・貝塚研究へ
- 39 (昭和 14) 年 長谷部言人 東大嘱託
- 53 (昭和 28) 年 東大退職 同志社へ転職
- 65 (昭和 40) 年 紫野大徳寺高桐院で死去

I. 幼少年期から同志社卒業 開成就職 特高による検挙までの青年期

II. 浪人を経て東大人類学教室嘱託から同志社勤務まで、「調査・日録」の要点
再現 両者ともに仲男自筆のノートに拠る

I. 青年期「わたしの履歴書」

1. 幼少年期一両親 東京⇄京都
2. 同志社大学 (24) 一大正デモクラシー 創作 英語・英文学 社会科学 リューマチ 恋愛 神経症
3. 開成中学 (27) 考古学 石田外茂一 検挙・失職 (33) 一大戦前夜

II. 考古学・貝塚研究 『仲男調査・日録』全12集 38～53 (昭和13～28)

1. 浪人 大山史前学研究所 神奈川県貝塚渉猟 単独発掘 貝塚研究会 主催と「貝塚」の発行
2. 東大嘱託 (39) 長谷部言人 関東一円の遺跡発掘 結婚 (40) 奈良 末永雅雄
3. 戦争 疎開 (飛騨高山 岡山)
4. 戦後 研究室住まい 熱海 (喘息発症) 市川 二カ所—グロート／国府台、影山氏／真間？ 土曜会の開催 「貝塚」復刊 篠遠喜彦氏 田無 東京時代の頂点 研究・調査・執筆活動の充実 東大退職
5. 同志社 (53) 以後の主要調査—島根菱根 (54) 京都府浜詰 (58) 福井県大飯町 (58～61) 北海道積丹半島 神恵内洞窟 和歌山県串本町 (60) 福井県鳥浜貝塚 (61) 長崎県五島遺跡 (62～64) ボルネオ調査隊 65年5月紫野大徳寺高桐院で死去 (63歳)

衝 撃

私の中学時代、先生の生き方とい
うものも、その授業内容や学識の高
さとは別に、私に深い感銘をあたら

5/9 日経
私の履歴書

中 村 真 一 郎
なか むら しん いち ろう

⑧

ひとりには漢文の原先生で、先生は
無量の漢詩を創作して、愚極に書き
それを朗読して聞かせた。内容は時
勢に対する慷慨の情であった。

先生は当時の都市のエロ、グロ、
ナチセンスの軽薄な時代風俗に強く
反発し、一方で日本経済の不況によ
る失業者の氾濫と、マルクス主義に
よる青年たちの過激な革命運動と
を、一種の皇國史観にもとづいて、
憂慮して、しばしば教室で四書五經
を中絶して、激語を發した。

東京の早熟な中学生の多くは、昭
和初期の當時は、漠然ながら社会
主義の影響を受
け、左翼に共感し、
右翼に厭悪と、そ
れから次第に、そ
の暴力的傾向に対
する恐怖とを感
ずるようになってい

東京音頭の輪に「天誅」

共産党シンパ拘引事件も

るようになってい
た。先生は「愛國の情」に対しては、
その誠実さに少年らしい倫理的尊敬
をほらっていた。

それが、日比谷公園で東京音頭と
いう、盆踊りまがいの夜間の大衆の
集りが流行して、世間の批判と興味
の中心になっていた時、先生は抜刀
して、その踊りの輪のなかに飛び込
んで、「天誅」と叫んで、檢査さ

れたという風評が流れて、私たちに
驚かせた。

東京音頭は、たしかに西条八十の
歌詞も、また浴衣で男女が夜間、み
だりに輪を作つて踊るといふ風俗
も、時代の頽廢現象であつたけれど
も、文明の爛熟がデカダンスの美を
もたらすものであることは、男装の
少女タキシーを中心とする松竹少女
歌劇や、フロリダなどのダンスホー
ルや、新興美術派の文学などと同じ、
当時の東京のモダンな流行に、私自
身、軽薄な都会の少年として、気分
的に同感して、現に東京音頭の
輪には、近所の女学生と誘い合わせ
て参加した経験もあつたから、冷水
を浴せられた気がした。

一方、より根本的に深刻な衝撃を
受けたのは、英留の酒井先生が共産
党のシンパとして、教室から拘引さ
れたという事件で、どちらかには思想的
にも共感を受ける騒動であつて、し
かも先生は、休日遊びに行つても、
学校の近くの蒲田山の自宅の庭か
ら、面白いように掘り出される土器
などを示されて、古代人の生活につ
いて話して聞かされただけで、マル
クス主義の論議など話された覚えは
なく、思想の面白については甚だ懐
疑に思つただけに、却つて私には、先
生の信念が本物で
あつて、時勢の流
行にうながされた
ものでないといふ
印象を受け、強い
感銘を与えられ
効果となつた。

先生は戦後、母校の同志社大学に
戻り、もともとの趣味であつた考古
学を専攻する学者として大成し、避
かに私を喜ばせた。

先生にとって、戦前の考古学は、
神話の間に包まれた日本の古代史
に、科学的な光りを与える仕事だつ
たわけで、それは社会革命の理想と
直結してはいたのである。(作家)

東京 風土記

5.20 '74

皇居のど真ん中にあった

昭和天皇も発掘調査を見学

1枚の自筆写真がある。撮影されたのは戦後4年たった1949(昭和24)年、皇居東御苑、天守台に近しい斜面にある江戸城・旧本丸西貝塚(縄文時代後期〜晩期)だ。

皇と皇后が発掘現場をのぞき込む。傍らで説明するのは東京大学人類学教室の故郷・藤田先生だ。

遺跡は旧江戸城(皇居)のど真ん中にある。東京メトロ竹橋駅を出て、西へ進むと、天守台(高さ18m)の巨大な石垣が迫ってくる。江戸城に貝塚が残されているのでは。「そういふ予感があったものです」。



旧本丸西貝塚の発掘現場を見学する昭和天皇と皇后。説明するのが酒詰さん(右から2人目)⇒1949年、千代田区教委提供



旧本丸西貝塚出土の縄文土器=東京大学総合研究博物館所蔵

ところが、終戦直後に天守台周辺が開墾され、近くの斜面で縄文土器が見つか

った。これを受けた本格調

掘もほぼ破壊された可能性が指摘されていた。

ところが、終戦直後に天守台周辺が開墾され、近くの斜面で縄文土器が見つか

った。これを受けた本格調掘もほぼ破壊された可能性が指摘されていた。



酒詰さんは著書『皇居の歴史』を著めたのが酒詰さんだ。酒詰の遺稿、比較的良質な貝塚が見つかった。縄文時代では大森貝塚(品川区・大田区)と並び都内で最も新しい時期の貝塚だ。ハマリが多く、ヤマトシジミなども多い。魚骨はハマリイ・クロタイ、ズズキなど。これらの大型魚を仕留める船も出土した。

酒詰さんは著書『皇居の歴史』を著めたのが酒詰さんだ。

酒詰さんは著書『皇居の歴史』を著めたのが酒詰さんだ。酒詰の遺稿、比較的良質な貝塚が見つかった。縄文時代では大森貝塚(品川区・大田区)と並び都内で最も新しい時期の貝塚だ。ハマリが多く、ヤマトシジミなども多い。魚骨はハマリイ・クロタイ、ズズキなど。これらの大型魚を仕留める船も出土した。

酒詰さんは著書『皇居の歴史』を著めたのが酒詰さんだ。酒詰の遺稿、比較的良質な貝塚が見つかった。縄文時代では大森貝塚(品川区・大田区)と並び都内で最も新しい時期の貝塚だ。ハマリが多く、ヤマトシジミなども多い。魚骨はハマリイ・クロタイ、ズズキなど。これらの大型魚を仕留める船も出土した。